

『ご存知ですか？花いっぱい運動！』

花いっぱい運動は、戦後まちが荒廃し人々の心にも余裕を持てないなかで“社会を美しく・明るく・住みよくしよう”また、“花を通じて人々の気持ちを豊かに”との願いを込め、昭和27年4月8日当時、小学校の教員だった小松一三夢さんによって始められ、全国に広がった活動です。

3月5日(木)、南九州大崎ロータリークラブ(会長：白山正浩さん)が、この花いっぱい運動を実施し、持留公民分館(分館長：久留松男さん)に花苗420本を寄贈しました。この運動を企画した同クラブで社会奉仕委員長の久徳博文さんは「今年から7年間にかけて、全分館に花を配布していき、花の成長を楽しみにしています。」と話されました。

早速、花の苗は持留地区農業構造改善センターの敷地内に植えられ、きっと綺麗な花を咲かせてくれることでしょう。



『多くのボランティアに感謝！』

3月7日(土)、菱田海岸松植栽場所で『九州ふるさとの森づくりinくいの松原&菱田海岸グリーン作戦』が行われ、町内から350人を超えるボランティアの人達が集まりました。

参加者は草刈と植林の二手に別れ作業を開始し、除草班はビーバーを使いながら慣れた手つきで、松と松の間に生えた草を綺麗に狩り、植林班は移植ごてを使い、松、アキグミ、トベラの3種類の木1,500本(九州電力(株)提供)を植えました。

閉会式に戻ってきた参加者の軍手と長靴は泥だらけでしたが、その表情は“そんなの関係ない”と言っているかのように清々とした表情をしていました。

『椎茸のコマ打ち体験を実施！』

2月11日(水)、田中集落子ども育成会が、椎茸の駒打ち体験と間伐材を活用したゴミ不法投棄防止の看板を設置し、小中学生18人、保護者15人の計33人が参加しました。

この活動は、森林環境税公募事業として今年で2回目になるもので、曾於地区森林組合のインストラクターの指導のもと、椎茸の原木130本にドリルで穴を開けて椎茸菌をゴムハンマーで打ち込みました。

今年は、ボランティア活動のゴミ拾い時に不法投棄が多い5箇所『ポイ捨て禁止!』の看板も設置し、地区の住民からも感謝されていました。

